

わが国における津波対策の課題・問題点の認識

分野	項目	課題・問題点の認識
A. 警報・情報提供	1. 津波予警報に関する事	○わが国では近海における大規模地震発生後、直ちに津波の来襲が予想されるので、 <u>津波予警報のいっそうの迅速化、高精度化をどのように図るべきか。</u>
	2. 津波情報の伝達、提供に関する事	①インド洋大津波では多数の外国人観光客が犠牲となった。海岸や港湾の利用者など <u>住民以外の人々も</u> 含めた津波情報をどのように的確に提供すべきか。
		②インド洋大津波では運行中の列車が被災し多数の犠牲者を出した。 <u>運行中の列車</u> における危険の認知、乗客の避難等をどのように措置すべきか。
		③津波発生時において <u>通行中の車両</u> が危険を認知できるように、津波情報をどのように的確に提供すべきか。
		④津波発生時に港内に <u>停泊または沿岸を通航している船舶</u> に対し、避難などのために、どのように適確に対応すべきか。
3. 津波観測の充実	○津波の実況を把握し、津波情報の精度を向上させるためには、沖合を含むより多くの地点における <u>リアルタイムの津波観測データ</u> (潮位・波高)の <u>充実・共有</u> をどのように図るべきか。	

分野	項目	課題・問題点の認識
B. 予防	1. ハード・ソフト一体となった総合的な津波予防対策に関すること	①総合的な津波防護施設の点検・評価やそれらを踏まえた津波減災にどのように効果的に取り組むべきか。
		②津波ハザードマップの整備促進等ソフト対策は如何にあるべきか。
	2. 堤防、護岸など津波防護施設に関すること	①東海、東南海・南海地震等により、大きな被害が想定される地域における堤防、護岸、防波堤などの津波防護施設の整備水準(高さ、耐震性、延長など)は十分か。
		②東海、東南海・南海地震等により、大きな被害が想定される地域における海岸や河川の開口部(水門、樋門・樋管、陸閘、流入河川の河口など)の対策は十分か。
	3. 避難場所、避難路の確保に関すること	○東海、東南海・南海地震等により大きな被害が想定される地域における避難場所(津波避難ビルを含む)、避難路の確保は十分か。
	4. 港湾や海岸管理者以外の海岸線にある施設の管理者における津波対策に関すること	○東海、東南海・南海地震等により大きな被害が想定される地域における港湾や海岸管理者以外の海岸線の管理者(道路、空港)の津波対策はどのように考えるべきか。
	5. その他の事項	①津波の来襲により、港内の船舶や貨物等が水域や陸域などに流出し、港湾の機能低下や港湾背後地での被害が拡大するのではないか。
		②インド洋大津波では子供の犠牲者が多数に上ったという報道もある。わが国の津波対策において災害時要援護者対策はどのように考えるべきか。(再掲)
		③津波発生時に港湾内に停泊または沿岸を通航している船舶に対し、避難などのために、どのように適確に対応すべきか。(再掲)

分野	項目	課題・問題点の認識
C. 発災後の応急対策	1. 広域的な情報収集に関すること	○津波による被災後の応急対策には、緊急的かつ広域的な災害情報が必要であるが、 <u>情報の収集</u> についてどのような <u>体制</u> をとるべきか。
	2. 被災時における広域的な輸送ネットワークの確保に関すること	○地震及び津波発生後、被災地及び周辺地域への救援活動の支援や我が国の経済活動への影響の最小化などのため、広域的観点からの <u>輸送ネットワーク機能</u> をどのように <u>確保</u> すべきか。
	3. 孤立集落対策、輸送手段の確保等に関すること	○地震および津波発生後、沿岸部の孤立地区の救援・復旧をどのように行えばよいか。また、孤立地区を生じさせない予防的措置として各施設の機能の <u>リダンダンシー</u> をどのように確保すべきか。
D. 津波防災情報の普及・蓄積	1. 津波防災にかかるとる情報の普及に関すること	○インド洋津波においては、地元住民に津波防災に関する知識が乏しかったとの指摘がある。一方、昨年9月5日の東海道沖地震、紀伊半島沖地震発生時に津波警報が発せられたが、三重、和歌山においては多くの沿岸住民が避難しなかった。わが国においては津波防災にかかるとる住民の認識が十分か。また、 <u>住民の防災意識の風化</u> に対して、どのように考えればよいか。
	2. 津波防災にかかるとる情報の蓄積、調査研究に関すること	①今後わが国の津波対策に資する津波防災情報の蓄積および調査研究並びにその <u>成果を不断に行政に反映させる仕組み</u> は如何にあるべきか。 ②予防措置の前提として津波の挙動等を把握する必要があるのではないか。そのためには地震や津波を引き起こす海域及び海岸線までの <u>精密海底地形並びに陸上の精密地形等</u> を調査する必要があるのではないか。